

# あります

in CyberLand 2

第七のプロトコル

Intermission

ブルー・オーシャン

Version 1.0

脚本ノ小中千昭

Animation Play by Chiak J. Konaka

1996/09/19

登場人物

水無月 ありす(14)

鳳 麗奈(14)

八神 樹莉(14)

ビーチ

ありすたちの嬌声が聞こえる。

それぞれに似合った水着姿の三人、眩しい太陽を浴びてはしゃいでいる。

ありす「(モノ) あたしたちは、麗奈のパパが持つてる南の島のホテルに来ている」

ありすたち、楽しそう。

サービス・シヨット満載(笑)。

ありす「ちよつと樹莉！ 酷いじゃない」

樹莉「ごめんありすーっきやはははははは」

麗奈「あんたつて子はもー」

ありす「(モノ) あたしたちは、進学のことや、家のことや、サイバーランドのことを忘れて、すっかり楽しんでいる。このままずっと、こんな感じでいられたら……」

ありす、ふつと寂しそうな顔になって海を見つめる。

青い海……。

樹莉「ありす、どうしたのブルー入っちゃって急に」

ありす「あ、ううん。何でもない」

麗奈「ねえ！ 今日の本格的に海に潜ってみようよ」

ありす「スキンダイビング？」

樹莉「そーだよそーだよ！ あたしたち、ちゃんとダイビングの講習受けてたんだしー、本当の海にちゃんと潜ったことないしー」

ありす「(微笑) そうだね。行ってみよっか」

沖合

クルーザー・ボードが泊まっている。

日に焼けた船長がありすたちがボンベを背負うのを助けている。

樹莉「お、お、重いんだけどこれ……」

船長「この辺りは、あんまり地元の間人は潜らないんだ。気を付けて」

麗 奈「へーきへーき」

ありす「ありがとう。大丈夫。ちゃんとエキジットの時間は守りますから。麗奈、樹莉、ゲージ・チエック」

ボンベのゲージを見せ合う三人。

麗 奈「オッケー」

樹 莉「だいじょぶ」

船 長「ふうん。随分潜り慣れてる様だね。大したもんだ」

ありす「(ニコ) 本当の海は初めてなんです」

船 長「え？」

麗 奈「じゃ、行つてきまーす」

海

ドボン。三人が泡に包まれながら、陽光を背に青い世界へと降りてくる。

ありす「(ブシュー) きれい……」

樹 莉「(ブシュー) ほんとだーっ。海つていいねーっ」

美しい熱帯魚と戯れる三人。

海底

さして深くないそこは、砂の海底。

樹莉、何かを見つけてそこに近づく。

樹 莉「(ブシュー) ねーねー、これなあにー？」

ありす達も来る。

海底には、直径1mもある巨大なケーブルが延々と張っていた。

ありす「海底通信ケーブル……」

樹 莉「なあんだ。こんなとこまで来て、サイバーランドのハイウェイとぶつかるなんてね」

麗 奈「そう言や、コミュニファイの奴らが何か敷いてたって聞いたな。なーんか気分悪い。上がるっか」

ありす「これ、なんか変……」

ケーブルはセラミック製。奇怪な模様がびっしりと

刻まれている。

麗奈「これ、文字？」

ありす「見たことない言語だな……」

ありす、ダイヴァース・ウォッチ型NAVIを突き出し、赤外線トレーサーでスキャンする。

樹莉「まーた、ありすつてば言語オタクなんだからー」

麗奈「見て！」

ありす、ハツと見上げる。

悠然と泳ぐマンタ。

樹莉「気持ちよさそー」

ありす「(オフ)——あたしたち、急ぐことばかり考えてた気がする……」

麗奈「さっ、もうひと泳ぎしよ」

ありす「うん！」

樹莉「あーん、おいてかないでーっ」

三人の人魚、暖色の海を泳ぐ。

End of the Part.